

法政大学大学院
社会学研究科 社会学専攻 博士後期課程
研究業績目録

2017.03

目次

- 岩城 邦義 (1)
- 兼子 諭 (2)
- 高橋 賢次 (4)
- 高橋 誠一 (5)
- 丸山 友美 (7)
- 宮下 阿子 (8)
- 柳 啓明 (9)
- 山口 罌 (10)
- 山田 唐波里 (12)
- 吉田 公記 (13)

ふりがな 氏 名	いわき くによし 岩城 邦義
専攻	宗教社会学、アメリカ研究
2009 年	3 月 社会学 修士学位取得 (法政大学)
所属学会	日本社会学会、「宗教と社会」学会、ソシオロジ

学術論文(うち査読付きなし)	
「民主主義と連帯—二次的集団による連帯の構築と政治的参加拡大の可能性—」修士学位論文、2009年	
学会発表・招待講演	
「政治的参加を動機づけする家族—1970年代アメリカにおけるフィリス・シュラフリーの活動から—」日本社会学会第85回大会、於札幌学院大学、2012年11月	
「アメリカにおける中絶論争の背景—教会における家族観の変容からの考察—」「宗教と社会」学会第18回学術大会、於立命館大学、2010年6月	
研究報告書・翻訳など	
【翻訳】ロジャース・ブルーベイカー著、佐藤成基・高橋誠一・岩城邦義・吉田公記編訳『グローバル化する世界と「帰属の政治」——移民・シティズンシップ・国民国家』明石出版、2016年(第3章「ナショナリズム、エスニシティ、近代」を担当、pp.94-113)	

ふりがな 氏 名	かねこ さとし 兼子 諭
専攻	社会学理論、社会学史、文化社会学、市民社会論
	2004年 3月 社会学 修士学位取得（法政大学）
所属学会	日本社会学会、日本社会学史学会、関東社会学会、社会・経済システム学会

学歴	
2001年 3月	法政大学社会学部社会政策科学科卒業
2004年 3月	法政大学大学院社会科学研究所社会学専攻修士課程修了
2011年 3月	法政大学大学院社会科学研究所社会学専攻博士後期課程満期退学
職歴	
2011年 4月	法政大学現代福祉学部兼任講師（「社会学」担当、現在に至る）
2012年 7月	法政大学大原社会問題研究所兼任研究員（現在に至る）
2015年 4月	法政大学社会学部兼任講師（「専門演習2・3」担当、2016年3月まで）
2015年 4月	法政大学社会学部兼任講師（「社会学史」担当、現在に至る）
2016年 4月	法政大学大学院社会学研究科兼任講師（「理論社会学基礎」担当、法政大学社会学部「社会学史」と合同、現在に至る）
2016年 4月	法政大学社会学部兼任講師（「基礎演習」「社会学入門B」担当、現在に至る）

著書	
金井明人・土橋臣吾・津田正太郎編『メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版局、2013年（第2章「新聞メディアにおける人種問題の変遷—トレイヴォン・マーティン射殺事件報道の分析から」を分担担当）	
学術論文（うち査読付き3編）	
「多文化主義」における理論的問題の解決へ向けて—テイラー、キムリッカ、ホリンジャーの検討をもとに—」社会・経済システム学会編『社会・経済システム』第27号、2006年、pp141-153（査読付）	
「パーソンズ近代社会論の再読—社会的共同体の多元的包摂という観点を中心に—」法政大学大学院編『法政大学大学院紀要』第62号、2008年、pp99-106	
「近代における「共同体」と「社会」—近代社会の構成における「同質性問題」」法政大学大学院社会学専攻編『社会研究』第39号、2009年、pp25-41	
「パーソンズ社会理論の市民社会論への貢献—「影響力」概念とその批判的継承についての検討—」日本社会学史学会編『社会学史研究』33号、2011年、pp101-115（査読付）	
「タルコット・パーソンズの日本社会学における受容過程の分析—従来のパーソンズ受容の認識に対する『社会学評論』調査による応答」法政大学社会学部編『社会志林』58(4)、2012年、pp101-115（徳安彰との共著）	
「公共圏論のパースペクティブの刷新—アレグザンダー「市民圏」論の検討をもとに—」日本社会学会編『社会学評論』65(3)、2014年、pp360-373（査読付）	
学会発表・招待講演	
「パーソンズ「社会的共同体」論の検討—現代社会の考察の準拠概念としての「包摂」と「排除」概念の提起のため—」日本社会学会第77回大会、於熊本大学、2004年11月	
「「統合」と「包摂」—「多文化」社会の存立原理の考察—」日本社会学会第78回大会、於法政大学、2005年10月	
「多文化的な社会システムにおける幸福な共生の可能性」社会・経済システム学会第24回大会、於関西学院大学、2005年11月	

「パーソンズ近代社会論の再構成－近代社会の多元的構成という観点から－」日本社会学史学会第47回大会、於盛岡大学、2007年6月

「社会システム理論における市民社会論の定位－アレクサンダーの「2つの」社会理論の接合性・関連性の検討をもとに－」社会・経済システム学会第27回大会、於早稲田大学、2008年10月

「戦争の文化社会学－文化／意味システム理論の応用の試みとして－」社会・経済システム学会第28回大会、於関西大学、2009年10月

「パーソンズ社会理論とその継承の市民社会論的意義の検討－社会的共同体論、特に影響力概念の継承という観点から－」日本社会学史学会第50回記念大会、於奈良女子大学、2010年6月

「公共圏・市民社会の文化社会学－アレクサンダー文化社会学の検討をもとに－」日本社会学史学会第51回大会、於京都橘大学

「社会統合論の系統的再検討－パーソンズ影響力論の理論的モチーフの継承をめぐって－」日本社会学史学会第56回大会、於東京女子大学、2016年6月

研究報告書・翻訳など

「メディア・イベントの文化社会学－R.ジェイコブのロドニー・キング事件とロス・アンジェルス暴動に関する報道分析の検討－」(法政大学社会学部科研費プロジェクト基盤研究A報告書『公共圏の創成と規範理論の探究－現代的な社会問題の実証的研究を通して－ 論文集(Ⅱ)』研究代表者 船橋晴俊、2009年、pp115-128)

「文化的トラウマ論における公共圏の位置－アレクサンダーとギーゼンのホロコースト論の検討を中心に－」(法政大学社会学部科研費プロジェクト基盤研究A報告書『公共圏の創成と規範理論の探究－現代的な社会問題の実証的研究を通して－ 論文集(Ⅳ)』研究代表者 船橋晴俊、2010年、pp36-53)

ふりがな 氏 名	たかはし けんじ 高橋 賢次
専攻	理論社会学、他者論
2011年 3月	社会学 修士学位取得（法政大学）
所属学会	日本社会学会、日本社会学理論学会、社会学研究会

学術論文(うち査読付き1編)	
「個人化社会における社会的性格—秋葉原事件は不安定雇用の産物なのか」『法政大学社会学部 優秀卒業論文集 2008』pp.3-77、2009年	
「『他者と共に在ること』を問いなおす：社会学の前提的構制における『他者問題』の検討」修士学位論文、2011年	
「『他者との倫理的関係』とは何か—J.バトラーにおける『倫理への転回』を手がかりとして」『現代社会学理論研究』(9):67-80、2015年(査読有り)	
学会発表・招待講演	
「J.バトラーにおける〈倫理〉の主題系に関する理論的考察—『他者に対する応答=責任』の社会学的接近可能性を探る」第7回日本社会学理論学会大会、於立命館大学、2012年9月	
「『他者経験』への社会学的接近—現象学的社会学の発生論的展開における『他者問題』の批判的再検討を起点に」第9回日本社会学理論学会大会、於関西学院大学、2014年、9月	

ふりがな 氏 名	たかはし せいいち 高橋 誠一
専攻	社会学、国際社会学
2008年 3月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
所属学会	日本社会学会、移民政策学会

学歴	
2004年 3月	法政大学社会学部社会政策科学科卒業
2006年 4月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程入学
2008年 3月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了
2008年 4月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学
2017年 3月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得満期退学
職歴	
2009年 4月	日本学術振興会特別研究員(DC2)(2011年3月まで)
2009年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門B」担当、2011年3月まで)
2012年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会調査実習」担当、2013年3月まで)
2012年 10月	法政大学サステナビリティ研究機構リサーチアシスタント(2013年3月まで)
2013年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「政策研究実習」担当、2014年3月まで)
2013年 4月	川崎市市民文化局人権・男女共同参画室外国人市民施策専門調査員 (2016年4月より市民・こども局から市民文化局へ名称変更、現在に至る)
2014年 4月	法政大学大学院グローバル化と移民問題研究所特任研究員
2016年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「基礎演習」担当、2017年3月まで、「国際社会学 I」担当、 現在に至る、「国際社会と民族」担当、2017年4月から現在に至る)

著書	
宮島喬・吉村真子編『現代社会研究叢書7 移民・マイノリティと変容する世界』法政大学出版局、2012年(第9章「クルド問題をめぐる公共圏とその変容——在外クルド人の展開とトルコ国内の変化に着目して」を分担執筆、pp.229-25)	
学術論文(うち査読付き 編)	
『「クルド・ネイション」の構築と『在外クルド人』——統合と分化／差異化をめぐる諸相』修士学位論文、2008年	
「ネイションとインターネット」法政大学大学院『法政大学大学院紀要』第62号、2009年、pp.89-98	
『〈他者〉の統治とシティズンシップ——包摂／排除のメカニズムとそのグレーゾーンをめぐる』法政大学社会学部学会『社会志林』第57巻4号、2011年、pp.253-268	
学会発表・招待講演	
「1980年代以降におけるクルド人の『ネイション』形成に関する一考察——脱領域的な『ネイション』の形成と言語的多様性に着目して」日本社会学会第81回大会、於東北大学、2008年11月	
「クルド人の〈不確か〉なナショナル・アイデンティティに関する考察——ネイションをめぐる主観的自己理解／客観的定義の二重性と再帰性」日本社会学会第82回大会、於立教大学、2009年10月	

「ドイツにおける在外クルド人のアイデンティティ理解と権利要求——ナショナル・アイデンティティの境界と領域をめぐって」日本社会学会第83回研究大会、於名古屋大学、2010年10月

「ネオリベラルな統合モデルにおける移民コミュニティの位置づけに関する一考察——イギリスにおけるクルド人コミュニティを事例として」移民政策学会2011年度冬季大会、於名古屋市立大学、2011年12月

研究報告書・翻訳など

【報告書】『『クルド人』と『公共圏』——『在外クルド人』の展開と分断横断的なメディア空間の登場』(科学研究費補助金研究成果中間報告書、船橋晴俊編『公共圏の創成と規範理論の探究——現代的な社会問題の実証的研究を通して 論文集(Ⅰ)』、研究代表者:船橋晴俊、2008年、pp.101-117)

【報告書】「トルコにおけるマイノリティ問題としての『クルド問題』——EU加盟へむけた『国内改革』と残された課題」(科学研究費補助金研究成果中間報告書、吉村真子編『グローバル化における移民・マイノリティ・公共圏』、研究代表者:船橋晴俊、2010年、pp.138-148)

【報告書】『川崎市外国人市民意識実態調査報告書』川崎市市民・子ども局人権・男女共同参画室、2015年

【報告書】『川崎市外国人市民意識実態調査(インタビュー調査)報告書』川崎市市民・子ども局人権・男女共同参画室、2016年

【翻訳】ロジャース・ブルーベイカー著、佐藤成基・高橋誠一・岩城邦義・吉田公記編訳『グローバル化する世界と「帰属の政治」——移民・シティズンシップ・国民国家』明石書店、2016年(第5章「同化への回帰か?——フランス、ドイツ、アメリカにおける移民をめぐる視座の変化とその帰結」と第7章「分析のカテゴリーと実践のカテゴリー——ヨーロッパの移民諸国におけるムスリムの研究に関する一考察」を担当、pp.200-231, 288-301)

ふりがな 氏 名	まるやま ともみ		
丸山 友美			
専攻	メディア史、メディア論、ドキュメンタリー研究		
	2012年	3月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
所属学会	日本マス・コミュニケーション学会、日本社会学会、日本映像学会		

学歴			
2007年	3月	法政大学社会学部メディア社会学科卒業	
2012年	3月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了	
2012年	4月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学(現在に至る)	
職歴			
2007年	4月	株式会社トーハン(2010年3月まで)	
2012年	4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「メディア分析実習」「メディア社会学入門A」担当、2015年3月まで)	
2015年	4月	法政大学社会学部兼任講師(「基礎演習」担当、現在に至る)	

著書	
西田善行・塚田修一編『国道16号線スタディーズ(仮)』青弓社、2017年(第2章「テレビ・ドキュメンタリーの映しとる国道16号線」を分担執筆、近刊)	
学術論文(うち査読付き2編)	
「映像メディアの想像力—ドキュメンタリーにおける「偶然性」」修士学位論文、2012年	
「ドキュメンタリーの〈偶然性〉—森達也『A』(1998)の映像分析による考察」日本マス・コミュニケーション学会『マス・コミュニケーション研究』83号、2013年、pp.135-53(査読有り)	
「『日本の素顔』における「よきジャーナリズム」—「客観的」ドキュメンタリーの模索」法政大学社会学部学会『社会志林』60(3)号、2013年、pp.77-98(査読有り)	
学会発表・招待講演	
「ドキュメンタリーの〈偶然性〉—森達也『A』の映像分析による考察」日本マス・コミュニケーション学会2012年春季大会、於宮崎公立大学、2012年6月	
『ドキュメンタリーの〈都市〉へのまなざし』日本社会学会第86回大会、於慶應義塾大学、2013年10月	
「『よみがえる京大サイクロトロン』の上映会—ドキュメンタリーと歴史学をめぐって」歴史コミュニケーション研究会第11回、於東海大学、2013年11月	
「“Decent Journalism” appeared in the Naked Japan: Seeking “Objectivity” in Japanese Television Documentaries」RIPE2014、於慶應義塾大学、2014年8月	
「映画とテレビを越境するドキュメンタリー—NHK『日本の素顔』にみる「記録」の時代・1950年代」日本マス・コミュニケーション学会2015年春季大会、於同志社大学、2015年6月	

ふりがな 氏 名	みやした あこ 宮下 阿子
専攻	社会学
2011年 9月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
所属学会	日本社会学会、日本保健医療社会学会

学歴	
2009年 3月	法政大学社会学部社会学科卒業
2011年 9月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了
2012年 4月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学(現在に至る)
職歴	
2013年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会調査実習」担当、2014年1月まで)
2014年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門A」担当、2015年1月まで)
2015年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「演習2」「演習3(卒業論文)」担当、2016年3月まで)
2015年 9月	法政大学大学院公共政策研究科ティーチングアシスタント(「社会調査法8(質的資料分析法)」担当、2015年11月まで)
2016年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「家族社会学Ⅰ・Ⅱ」担当、2017年3月まで)
2017年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「基礎演習」担当)

著書
岡原正幸編『感情を生きる——パフォーマティブ社会学へ』慶應義塾大学出版会、2014年(第4章「く私」を揺さぶる他者を前に——調査者(聞き手)が語り手になるとき」を分担執筆、pp.56-74)
学術論文(うち査読付きなし)
「“食”にあらわれる『苦しみ(suffering)』の諸相——〈摂食障害〉を抱える生活者たちの『語り』からの一考察」修士学位論文、2011年
「対話的構築から対話的還元へ——研究者が『当事者でもあること』を問いなおす」三田社会学会『三田社会学』19号、2014年、pp.20-33
学会発表・招待講演
「“食”をめぐる出来事としての〈摂食障害〉——〈当事者〉たちの生きられた経験の記述に向けて」第85回日本社会学会大会、於札幌学院大学、2012年11月
「当事者と他者のあいだで——〈摂食障害〉の生きられた経験へ」2013年度三田社会学会大会シンポジウム、於慶應義塾大学、2013年7月
「“食”を拒むことが意味するもの——『死にたい』ではなく、『消えたい』」第86回日本社会学会大会、於慶應義塾大学、2013年10月
「先天性心疾患とともに生きる人々の社会生活と生活史(2)——ライフコースの選択と社会生活の再定義をめぐって」第40回日本保健医療社会学会大会、於東北大学、2014年5月
研究報告書・翻訳など
【エッセイ】「摂食障害における『くうこと』と『くうもの』」『支援 Vol.6』生活書院、2016年、pp.160-166

ふりがな 氏 名	やなぎ ひろあき 柳 啓明
専攻	近代史、歴史社会学、境界地域研究(琉球／沖縄、八重山)
	2012年 9月 社会学 修士学位取得(法政大学)
所属学会	アジア民衆史研究会

学歴	
2012年 3月	法政大学社会学部社会学科卒業
2014年 9月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻社会学コース修士課程修了
2015年 4月	法政大学大学院社会学研究科博士後期課程入学(現在に至る)
職歴	
2012年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会調査実習」「調査研究法A」担当、2013年1月まで)
2015年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会調査実習」「調査研究法A」担当、2017年1月まで)
2014年 10月	法政大学大原社会問題研究所 研究補助業務(2015年2月まで)
2017年 4月	特定非営利活動法人 アジア・アフリカ研究所 事務局員(内定済み)

著書	
壽福眞美監修・柳啓明ほか編『知の史的探究』八千代出版、2017年3月刊行予定(第8章「近代琉球の『境域』と政治文化——与那国郵便局成立史」を分担執筆、pp.203-229)	
学術論文(うち査読付きなし)	
「越境的自治意識の創造基盤：『外地』台湾と『内地』の中継地点・与那国島における境界線の相克」修士学位論文、2012年	
「内地の西端地域・与那国村における民衆間対立——1924年～1933年の『自治』に着目して」法政大学社会学部学会『社会志林』63-4号、2017年刊行予定	
学会発表・招待講演	
「内地の西端地域・与那国村における民衆間対立——1924年～1933年の『自治』に着目して」アジア民衆史研究会・国立歴史問題研究所(韓国)・茨城大学大学院人文学研究科主催、第15回「近代移行期における東アジアの民衆のあり方を比較し、連関を考えるための国際的ネットワーク」構築のためのワークショップ、於茨城大学、2016年1月	
研究報告書・翻訳など	
「境界地域の政治文化—1933年の与那国村議補欠選挙における社会の『2項対立』化—」法政大学大学院社会学専攻委員会『社会研究』第45号、2014年、pp.69-95	

ふりがな 氏 名	やまぐち るい 山口 塁
専攻	産業社会学、日本企業における外国人労働者の活用
	2009年 3月 社会学 修士学位取得（立教大学）
所属学会	日本社会学会、関東社会学会、日本労働社会学会、移民政策学会

学歴	
2003年 3月	神戸大学経営学部経営学科卒業
2009年 3月	立教大学大学院社会学研究科博士課程前期課程修了
2016年 4月	法政大学大学院社会学研究科博士後期課程入学（現在に至る）
おもな職歴	
2012年 4月	立教大学社会情報教育研究センター リサーチアシスタント(2016年3月まで)
2013年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「産業社会学」担当、2014年3月まで)
2013年 4月	(独)労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員(現在に至る)
2015年 4月	法政大学通信教育部兼任講師(「人的資源管理論」担当、現在に至る)
2016年 4月	文京学院大学人間学部非常勤講師(「産業社会学」担当、現在に至る)
2016年 9月	法政大学キャリアデザイン学部兼任講師(「キャリア研究調査法(質的調査)」担当、現在に至る)

おもな学術論文(うち査読付きなし)	
「岐阜アパレル産業における労働者確保施策の変遷——集団就職、家内労働から技能実習制度へ」、法政大学比較経済研究所ワーキングペーパーNo.176、2013年、pp.1-51(上林千恵子との共著)	
“Can Japanese Firms Get Along with Highly Skilled Foreign Workers?: Intentions among Former International Students to Settle and Work in Japan” 法政大学比較経済研究所ワーキングペーパーNo.194、2015年、pp.1-28(前田豊との共著)	
「日本企業における留学生人材の活用と労働市場での位置づけ」、法政大学比較経済研究所ワーキングペーパーNo.200、2016年、pp.1-21	
おもな学会発表・招待講演	
「岐阜アパレル産業における労働者確保施策の変遷——集団就職、家内労働から技能実習制度へ」仕事と雇用に関する社会学研究会第1回ワークショップ、東京大学、2013年4月	
「高度外国人材の供給源としての留学生——就職を目的として入国した高度外国人材との比較から」日本社会学会第87回大会、神戸大学、2014年11月	
「高度外国人材の日本への定着志向——留学生人材を事例にして」、数理社会学会第59回大会、久留米大学、2015年3月(前田豊との共同報告)	
おもな研究報告書・翻訳など	
【報告書】「戦後岐阜アパレル産業における労働力集積・確保の動向」上林千恵子・山口塁編『中京地区における外国人技能実習生受け入れの実態』、法政大学社会学部社会調査実習運営委員会、2012年、pp.87-111	
【報告書】「高度外国人材の供給源としての留学生——就職を目的として入国した高度人材との比較を中心として」、上林千恵子・山口塁編『高度外国人材の受け入れと日本企業の対応』、法政大学社会学部社会調査実習運営委員会、2014年、pp.39-60	
【報告書】「第Ⅳ部 機関における取組みと課題——事例調査レコード」(『求職者支援制度に関する調査研究——訓練実施機関についての調査・分析』、労働政策研究・研修機構、労働政策研究報告書No.163、2014年、pp.173-258、藤本真、小川豊武との共著)	

【報告書】「JEC連合 大星ビル管理労働組合」(『パート・有期契約労働者等 組織化・処遇改善 取り組み事例集』、日本労働組合総連合会非正規労働センター、2015年、pp.38-41)

【報告書】「私鉄総連 越後交通労働組合」(『パート・有期契約労働者等 組織化・処遇改善 取り組み事例集』、日本労働組合総連合会非正規労働センター、2015年、pp.42-45)

【報告書】「均衡処遇と『募集と定着』を実現するための人事制度の構築——クレディセゾン労働組合」(『非正規労働者の組織化と労働組合機能に関する研究』、労働政策研究・研修機構、資料シリーズNo.174、2016年、pp.184-200)

【論文Today】「第三次産業革命下におけるスキルとそれに対する支払いについて」(『日本労働研究雑誌』、労働政策研究・研修機構、No.646、2014年、pp.96-97)

【解説】「パネルディスカッション・討議概要」(『日本労働研究雑誌』、労働政策研究・研修機構、No.679、2017年、pp.3-8)

ふりがな 氏名	やまだ からはり 山田 唐波里
専攻	社会学
2015年 3月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
所属学会	日本社会学会

職歴	
2015年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会調査実習」担当, 2016年3月まで)
2016年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門B」担当, 2017年3月まで)

学術論文(うち査読付きなし)
「人口を統制すること——日本社会における人口概念の展開——」修士学位論文、2015

ふりがな 氏 名	よしだ こうき 吉田 公記
専攻	国際社会学、イギリス研究
2007年 3月	社会学 修士学位取得（法政大学）
所属学会	日本社会学会、関東社会学会、移民政策学会

学術論文(うち査読付きなし)	
「ネーションの境界の人種化プロセスにおける“他者”との関係の役割——80年代後半以降のイギリスにおける自治権移譲を巡る議論に見る“イングランド人”の境界の人種化プロセスの検討」修士学位論文、2007年	
学会発表・招待講演	
「イギリス国民党の後退と移民をめぐる言説の変容」移民政策学会、2014年度冬季大会、於大阪大学、2014年12月	
「第一次キャメロン政権期における既成政党の移民政策とイギリス独立党の躍進」移民政策学会、2015年度冬季大会、於中京大学、2015年12月	
研究報告書・翻訳など	
【翻訳】ロジャース・ブルーベイカー著・佐藤成基・高橋誠一・岩城邦義・吉田公記編訳『グローバル化する世界と「帰属の政治」——移民・シティズンシップ・国民国家』明石書店、2016年(第1章「移民、メンバーシップ、国民国家」と第2章「ネーションの名において——ナショナリズムと愛国主義の考察」を担当、pp.37-93)	
【翻訳】V. B. マーティン・A. ユンニルド編・志村健一・小島通代・水野節夫監訳『グラウンデッド・セオリー——バーニー・グレイザーの哲学・方法・実践』ミネルヴァ書房、2017年(第2章「概念発見のための雰囲気づくり」(アストリッド・ユンニルド著、水野節夫との共訳)と第11章「人生のレッスン——バーニー・グレイザーからグラウンデッド・セオリーを学ぶ」(キャシー・シャーマズ著)を担当、pp.47-74, 266-278)	